

世へ5世の幼稚園から中学生の子どもたち。彼らが第二次大戦の際に日本に強制連行された人たちの子孫であることを、私たちちは忘れてはなりません。戦後、故郷の国が二つに分かれた結果、複雑な状況におかれしたことでも不運な歴史です。

リ・ジョンエ校長は、自身の体験から「もし日本の学校へ入ついたら、朝鮮人である父

「そのために必要」という話に、多文化共生の意義を実感しました。

一学年10人程度で学ぶ教室では、子ども達の学ぶ喜びに溢れた、活気ある授業を見学しました。この子どもたちが言われない差別を受けることのないよう、私たちが共に声をあげていかなくてはなりません。



共に生きるための計画策定を

佐々木ゆみこ（ネット宮前／県議）

1月26日、「やまゆり園事件を考える神奈川集会」に参加しました。障がい者や家族、関係者からは、住み慣れた地域で暮らすことを可能とする施策の充実と「どこに住むのか、どんな生き方をするのか、本人に決めさせてほしい」との意見が数多く出されました。言葉を発することが出来なくとも、理解できる言葉が少なくとも、その人にとっての幸せの追求、実現に向けて支援することはとても重要です。

県は、現地で同規模の施設を再建する計画を打ち出し、基本構想の策定に取り掛かっていますが、運営法人と家族会だけで決めてしまった再建計画に疑問の声が寄せられています。これを受け、県は入所者本人から希望を聴取するなど慎重に検討するとしています。

一方で、自宅で暮らす障がい者の家族からは「受け入れ可能なショ-

青木マキ（ネット青葉）

かながわ「共に生きる」学習会朝鮮学校訪問ツアーパーに参加しました。訪問した西東京第二朝鮮幼初中級学校は、今年71周年。資金難を乗り越えて4年前に建て替えられていました。ここ

青木マキ（ネット青葉／横浜市議）



# ピースリングツアー2017 基地を知り軍事によらない平和を はたい陽子（ネットあやせ／市議）

1月31日、神奈川県内の県央に位置する、相模総合補給廠、キャンプ座間・綾瀬市・大和市・海老名市にまたがる厚木海軍飛行場をめぐるピースリングツアーを開催しました。当日々は、各地域ネットメンバーが連携してガイドを務めました。

参加者からは「身近にある施設なのに何も知らなかつた」という感想も聞かれ、騒音には悩まされていても基地の実態は知られていないという状況も浮き彫りになりました。

基地の存在は、騒音問題にとどまらず、部品落下や日米地位協定が抱える問題、基地交付金と自治体財政の構造的な問題など、住民には多大な影響を与えています。

知ろうとしなければ知ることができない現状を伝え、自分ごととして考えるきっかけをつくり活動をひろげていきます。

二二二一 実業人のいの話題を

1月19日には、社会福祉法人「かないばら苑」（川崎市麻生区）を訪問し、デイサービスの空き車両を活用した移動支援の取り組みについて、苑長の依田明子さんに伺いました。

かないばら苑では、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業、デイサービス、ショートステイ、地域包括支援センターの各事業を実施しています。法人事業へのボランティア参加数は年間延べ4200人。職員167人に対し、日に約11・5人のボランティアがいる計算です。

が2人のボランティアコーディネーターの存在です。



▲厚木基地に着陸する飛行機

地域資源をコーディネートする  
ボランティアによる移動支援

根本さち子（ネット逗子／市議）



NPO  
メール

と  
保育園へ 私たちがたどった道 NPO メール  
理事長 勝浦いづみ (市民社会チャレンジ混合会第1期助成団体) No.75

自分たちの住み暮らす街で、子育て中の女性を応援する保育室を作ること、私達は出資金10万円を持ち寄りワーカーズ・コレクティブを立ち上げた。女性が働き続けること、働く始めることが社会参加すること、自らしくいしたいという願いを応援したい。それはまさに自分たちへの応援でもあったのかもしれない。

2000年前後、食と環境への意識を強く持つた生活クラブ生協や神奈川ネットに参加していた女性たちが中心となり、県下に多くの子育て支援施設やサービスを立ち上げた。当時、定期的に行われていた神奈川ネット「子どもミニ」ティープロジェクト「ト」には仲間が集まり、会議室は熱気でムンムンしていた記憶がある。それぞれ地域や自分たちの事情に合わせた保育事業を模索しながら仲間を増やし雇用を生み出しながら現在も活躍している情報を目にすると、嬉しく

もあり、励まされ勇気も湧いてくる。2004年度より、新たに横浜保育室となり子育てと就労の両立支援との配置に大きく左右されニーズにはえきれずジレンマを抱えながら今日に至っている。2016年、制度変更の波に乗る決断をし「横浜保育室認可保育所移行事業」に手を挙げた。

2016年4月新園として約200㎡の認可乳児保育所を開設することことができた。卒園後の行き先や一時保育のニーズに応えきれないという課題を抱えているが、安全で安心できる建物と木の温もりをふんだんに感じられる落ち着いた保育環境は利用者やスタッフに居心地の良い毎日を提供していると思う。この保育園に関わる一人ひとりのかけがえのない人生の一部に「こどもつと」の存在が暖かく優しい思い出となれば幸いだ。そのためにまだまだチャレンジしなければならないと感じている。

**編集後記**

神奈川県のエフテル事業として14市町が電子母子手帳を導入した。「予防接種や子育て記録がスマホで簡単便利に」をうたい文句に、身長・体重のグラフ化や予防接種のスケジュール管理までしてくれるという▼予防接種については種類も増えており、副反応の問題もあって、メリット・デメリット情報が十分に提供されているかが課題となつていて。こうした中で、接種日が近づくとアラートでお知らせがくることが、新米ママにはプレッシャーにならないか心配だ▼ビッグデータの活用が大きな目的だろうが、誰にどつてのメリットだろ？

(C・M)

神奈川ネットは、  
地域政党です。

生活の課題は  
政治に直結しています。  
国の政党が、地方の政治まで  
コントロールするのではなく  
多様な地域政党が政策を競い  
住みやすいまちをつくる  
社会をめざします。



## 今月の神奈川ネット